

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 5月 11日

【評価実施概要】

事業所番号	0171400146		
法人名	社会福祉法人敬聖会		
事業所名	グループホームききょう		
所在地	〒041-0801 函館市桔梗町557番地 (電 話) 0138-47-8033		
評価機関名	社会福祉法人 北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北 2 条西 7 丁目 1 番地		
訪問調査日	平成21年3月2日	評価確定日	平成21年5月11日

【情報提供票より】 (平成21年 2月 9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13 年 5 月 1 日		
ユニット数	4 ユニット	利用定員数計	36 人
職員数	32 人	常勤 30人, 非常勤 2人, 常勤換算	31.15人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	2 階建ての	1～2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	23,000 円	その他の経費(月額)	9,260～18,260 円
敷 金	有 (円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,290 円		

(4) 利用者の概要 (2月 9日現在)

利用者人数	36 名	男性	4 名	女性	32 名
要介護 1	10 名	要介護 2	8 名		
要介護 3	11 名	要介護 4	5 名		
要介護 5	2 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低 73 歳	最高 97 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	森病院 社会事業協会函館病院 吉田眼科 やなせ皮膚科 大村整形外科
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は緑豊かな丘陵地帯に位置し、敷地内には、同一法人の老人保健施設やケアハウスがある。2階建ての建物に4ユニットが配置され、各ユニットは独立しているが、職員間の交流は盛んであり、すべての職員がすべての利用者を支援することを主眼に置いている。また、利用者もユニット間を自由に出入りしている。ケアプランについても、日々の生活の中でどのように実施されているか、日誌上で確認できる工夫をし、その人にあったケアの実践に職員全員で取り組んでいる。今後も複数ユニットの特性を活かし、併設事業所と連動した、立体的複合的な取り組みに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目: 外部4)
	前回の主な改善点であった、地域との交流の促進と、市窓口と情報交換ができる体制の整備については、地元関係者や行政担当者が運営推進会議へ定期的に参加するなど、着実に前進している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	管理者や計画作成者が提起し、各ユニットごとに論議を積み上げた内容となっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、町内会役員、行政窓口担当者、地域包括支援センター、利用者家族等が参加し、2ヶ月ごとに開催している。討議内容は、事業所からの行事や生活状況についての報告が多い。今後は、認知症サポーター養成講座等を開催し地域に働きかけるなど、会議においても、より双方向的な意見交換を視野に入れた取り組みとなるよう期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	玄関に意見箱を設置し、重要事項説明書や苦情対応の一覧等を貼るなど、情報の開示に取り組んでいる。また、家族の来所時には、意見や不安等の積極的な聞き取りを心がけて対応している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	事業所は、住宅地から離れた丘陵地帯に立地し、地域的な連携は難しい環境下にある。しかし、町内会関係者に働きかけることで、運営推進会議への参加を実現し、利用者の突然の外出にも協力を得られる体制を培うなど、積極的に取り組んでいる。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の運営方針を、理念として活用し、事務室に貼り、職員はいつも念頭におきながらケアに取り組んでいる。	○	理念はケアの核を形成する大事な表明である。今後は、運営方針に沿った内容で、独自の理念を掲げることを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の申し送り時や月に1度のユニット会議で、運営方針に則したケアができているか確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	住宅地から遠く、困難な立地条件であるが、意欲的に地域との交流を保つようにしている。子どもたちの演奏会や花造りのボランティアの受け入れ等、積極的な姿勢の継続に、今後も期待したい。	○	困難な立地条件下での意欲的な取り組みを大きく評価したい。今後は、その地域性を活かし、町内で認知症サポーター養成講座を開催するなど、事業所機能の地域還元を事業所から働きかけていくような取り組みを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各ユニットごとに、項目に沿った自己評価を実施している。提案された事項についても論議を継承している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに、市の保健所担当者、地域包括支援センター職員、地区民生委員、町内会関係者を委員として、運営推進会議を開催している。会議の内容は、事業所からの報告が主だが、参加者からの各種提案もあり、ケア向上に役立っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の窓口との対応は事業所の生活相談員が行っており、頻繁なやり取りをしながら、相談できる関係を維持している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	会報を年3回発行し、事業所での生活の様子を家族に伝えている。また、預かり金の明細は個別に各家庭に送付し、個々利用者の状況にあわせた報告に努めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や訪問時の聞き取り等で、家族からの意見聴取を行っている。また3ヶ月に一度は来所してもらい、プランの確認や話し合いの場を設定している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者がなじみの職員により支援を受けられるよう、外部への異動は極力おさえるようにしている。離職により新規職員を採用した場合は、家族に説明し、徐々に関係を構築するように努めている。		


外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時研修や内部研修、外部の研修など、年間計画に沿って実施している。また、研修に参加した職員は必ず報告を行い、全職員が理解できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム南北海道協議会に加盟し、情報の収集や意見交換、研修会での事例検討などの交流を通して、ケアの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前は、見学や話し合いをしながら、事業所の雰囲気に慣れてもらうよう工夫している。利用開始後も事業所の流れを優先させることなく、個々の利用者の状況に応じて徐々に溶け込んでもらえるように支援をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の意向を尊重し、趣味や得意な活動を共にしながら、より密接で信頼される関係を築くよう努めている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族からの聞き取りで本人の思いを把握し、一人ひとりにあった生活ができるように取り組んでいる。また、プランを日誌上で確認できるように工夫している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意向を中心に、日々の生活の様子や情報などを加味して、ユニット会議で論議し計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	新規の利用者については、利用開始後1ヶ月でプランを見直している。通常は3ヶ月ごとに見直し、新しいプランについては家族に報告して同意を得ている。また、怪我や病状の変化には即応し、常に現状に沿ったプランになるよう取り組んでいる。ケアプランの遂行状態を、着色して日誌上に記載し、日々の確認ができやすい工夫している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買い物などの外出に同行し、外泊時には家庭まで送迎している。また、家族の宿泊等にも対応するなど、臨機応変に柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同一敷地内の病院がかかりつけ医となり、信頼関係を築いている。定期受診の他に往診も可能であり、利用者に無理のかからない医療体制で支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に関する約定が書類として作られている。本人や家族、かかりつけ医と話し合い、取り組む体制を築いている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりの尊厳を大切にし、特に会話や笑顔に気をつけて接している。個人記録簿は、鍵のかかる書棚に適切に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の都合や介護の決まり事を優先することなく、利用者のペースを中心とした生活が送れるように支援している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、同一母体法人の他事業所で作っているため、当事業所では盛り付け、汁物の提供を行っている。利用者は、配膳や盛り付け、食器洗い等を職員と一緒にするなど、能力に応じた支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は設定しているが、特段これに固執することなく、利用者の希望に応じて随時入浴できるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者や家族から聞き取りをした生活歴や日々の暮らしぶり等から判断し、本人の能力に見合った役割や趣味等を楽しめる様に支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩等、できる限り戸外に出るように取り組んでおり、利用者は同一敷地内にある福祉施設や病院の売店にも気軽に出かけている。また、職員も常に同行し、支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関やユニット出入り口は、防犯上の理由から夜間のみ施錠している。突然の外出をする利用者もいるが、職員は注意深いケアで支援している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力により、春と秋に災害訓練を実施している。出火を想定した訓練等も繰り返し行っている。関連施設の応援体制を確認することで、不慮の事故に備えている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を作り、栄養バランスについては、細部まで神経が行き届いた食事となっている。水分補給は、チェック表を活用し、十分な水分摂取量を保てるように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の玄関部に雛飾りを置くなど、季節感への配慮をしている。居間の南側は前面ガラス張り、日差しが一日中あふれる明るく温かな空間となっている。窓からの採光を、レースのカーテン等の調整により適度な陽光として室内に取り入れるなど、明るさと適温に注意した利用者に優しい取り組みに努めている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には、使い慣れた椅子や机、人形や家族の写真等が飾られ、安心して生活できるような工夫や配慮をしている。		

※  は、重点項目。